

# 建設業に働く若者からのメッセージ



## 未来に架ける橋

宮坂建設工業株式会社  
樽見真人

私が建設業を志したのは中学生の頃です。

小さい頃から作ることが大好きでプラモデルなどをよく造っていましたが、しだいにもっと大きなもの、建物とか、道路とか、もっともっと大きな物を造りたい、と思うようになりました。

そんな私が高校生になり、幼少の頃からやっていた柔道で、ある日大きな怪我をしてしまいました。1ヶ月もの間入院することになってしまったのです。普通の高校生の退屈な入院中に、飛び込んできたニュース、日本全国に衝撃が走ったニュースがありました。橋は倒れ、道路は分断され、高層ビルなどの建物も無惨に崩壊し、6,434人の尊い命を奪い、43,792人の重軽傷者、全半壊家屋 274,181棟、焼失家屋約7,500棟、避難者約35万人の被害を出した「阪神・淡路大震災」です。あの時、同じ病棟の人たちと共に見た、泣き崩れている人々の風景を私は今でも鮮明に覚えています。そしてあの瞬間に私は自分の人生を、私の歩む道を決めたのです。それは土木工事の現場監督になって、このような無惨な被害を少なくする。私の力で尊い命を救ってやろうと心に決めました。

退院後、私は柔道に復帰し、さらに疲れた体に鞭を打ち、勉強にも力を入れました。目標はただひとつ、土木の大学へ進学することでした。私は第一志望の大学に合格し、同時に自分の運転で土木構造物を見てまわるのが趣味となっていました。

北海道内、様々な箇所を見学して歩く中で、特に魅力を感じたものが橋梁でした。帯広の十勝大橋の美しさに魅せられ、釧路の幣舞橋、旭川の旭橋、室蘭の白鳥大橋。町と町を繋ぐ橋。海の青とのコントラストが美しい橋。

私もいつか橋梁を造りたいと思いました。阪神・淡路大震災のニュースでも一番印象強かった橋梁の被災。私は大学での講義でも橋梁に力を入れ、卒業研究も橋梁について行いました。

私は宮坂建設工業に入社し、色々な土木工事に携わってきました。夢であった橋梁工事も行ってきました。完成時には涙が出るほど感動しました。橋梁の災害復旧工事では近隣の方々に「まだ、通れない？この橋が通れないと困るの

よ。」などと言われたことがありました。復旧完了後の開通時には「ありがとね、凄く助かったよ。」と感謝のお言葉をかけていただいたこともありました。そのときほど、この仕事をやって良かったと思ったことはありません。

私は、道路工事はもとより、河川・農業、色々な工事を行ってまいりました。それぞれ、誰かのためになっている、誰かが喜んでくれていると思いつながりながら工事を進めています。だから頑張れているのだと思っています。

私は現在、橋梁だけにとらわれず様々な土木工事を行っています。それぞれやりがいがあり、どの工事に対しても一生懸命行うつもりです。

人々が安全に暮らせるように。人の暮らしの中に笑顔が届くように。

今、私の夢は、私がもっとも苦勞した土木工事の構造物が見える広場で、息子と遊ぶことです。

「お父さんが造ったんだぞーっ！」と胸を張って子供たちに自慢できるものを造りたいと思っています。未来に繋がる施工ができれば嬉しいです。

